123 モレ 『フランス・モードの歴史』 あるいはフランスのコスチュームの変遷，王朝創設期から今日までのフランス人の頭髪に関するすべてと昔の人の人工頭髪の使用法についての研究を含む

Molé, Guillaume F. Roger. Histoire des modes francaises ou révolutions du costume en France, depuis l'établissement de la monarchie jusqu' à nos jours. contenant tout ce qui concerne la tête des Français, avec des recherches sur l' usage des chevelures artificielles chez les anciens. Amsterdam, Costard, 1773. 360p. 18.5×11.3cm 〈383. 135-M〉
Hiler p. 623 Colas 1449 Lipp. 1674

1773年，アムステルダムとパリで出版された。『フランス・モードの歴史』という標題にはなっているが，長い副題が示すように，フランスの創設期から本書が出版された18世紀に至るまでのフランス男子の頭部，すなわち，**頭髪、ひげ、かつら**についての研究書である。

モードの歴史としながらも，男子の〈かつら〉が主対象になっているのは，18世紀のモードを知る上でまことに興味深い。というのも，バロック様式を経て，ロココ風宮廷文化の爛熟期にあった当時のフランスを中心としたヨーロッパでは，男子の服装は，権威の象徴という機能を担って豪奢を極めていた。また，17世紀のはじめごろから，流行していた人工髪，つまり〈かつら〉は派手な衣装とよく調和し，重々しくおおげさなものとなり，その時代の服装の一部として不可欠な要素になっていた。したがって，型の変化の重点も，デザインそのものも，頭髪，つまり〈かつら〉が中心で，今日のように服装そのものなのではなかったからである。また，これよりさかのぼっての服装の歴史的研究はほとんど見当たらず，常に我々に最も身近かなテーマであった衣服は，考古学者や好事家の断片的興味の対象として記される以外はまるで取り上げられることはなかった。わずかにルジャンドル(M. Legendre)，アベ・ヴェリ(Abbé Vély)らの研究が残されているが，逸話を中心とした科学性の薄いもので，この期になって，ようやく衣服を歴史的に考察する動きが芽生え始めた程度であった。

こうした背景の中で，著者は，残された過去の人物の彫刻，メダイユ，肖像画，手紙，文献などをよりどころにして，服装の一部であったフランス男子の頭髪について，実証的研究を試みようとしたものである。従って，本書は広義の初期的なモードの歴史書という意味において極めて興味深い一書ということができる。(深井)